

特集 2019年度入試 直前動向分析

大学入試センター試験まで2ヵ月を切った。2019年度入試では国立大の学科再編、私立大の学部・学科の新設が目立つほか、高大接続改革に伴い推薦・AO入試の拡大といった動きもみられる。また、国による定員超過抑制策は2019年度も継続する。

こうした環境で行われる2019年度入試の動向を、10月に実施した第3回全統マーク模試の志望データをもとに探る。

◆センター試験出願状況

10月12日に発表された2019年度大学入試センター試験（以下、センター試験）の受付最終日時点の出願総数は537,008人であった。前年同日時点と比較すると8,685人増（前年比101.6%）となった。内訳をみると、現役生が6,703人増の444,953人（前年比101.5%）、既卒生等が1,982人増の92,055人（前年比102.2%）と、ともに増加した。既卒生の増加は、2018年度入試が難化した影響とみられる。

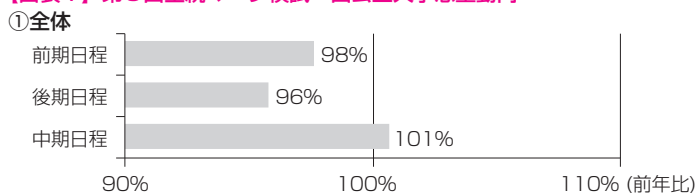
確定志願者数は、12月上旬に発表される予定である。

◆国公立大の志望者 難関大文系学部で増加

ここからは第3回全統マーク模試の志望データをもとに、国公立大の志望動向をみていく。

入試の中心である前期日程の志望者は前年比98%とやや減少した【図表1-①】。後期日程では、募集停止や募集人員減少となる大学が目立った影響で前年比96%と減少率が高くなった。

【図表1】第3回全統マーク模試 国公立大学志望動向



②大学グループ別

	全体			現役	既卒
	昨年	今年	前年比	前年比	前年比
難関10大	50,024	49,676	99%	98%	102%
文系学部	17,594	18,018	102%	101%	107%
理系学部	30,615	29,804	97%	97%	99%
その他	1,815	1,854	102%	99%	115%
準難関・地域拠点大	38,553	37,733	98%	97%	102%
文系学部	16,899	16,725	99%	97%	112%
理系学部	19,971	19,359	97%	97%	96%
その他	1,683	1,649	98%	98%	100%
その他大	101,817	98,515	97%	97%	97%
文系学部	44,450	43,069	97%	97%	102%
理系学部	48,510	46,599	96%	96%	95%
その他	8,857	8,847	100%	100%	100%
国公立大計	190,394	185,924	98%	97%	100%

※前期日程で集計

※難関10大：北海道・東北・東京・東京工業・一橋・名古屋・京都・大阪・神戸・九州

※準難関・地域拠点大：筑波・千葉・横浜国立・新潟・金沢・岡山・広島・熊本・首都大東京・大阪市立

※文系学部：文・人文・社会・国際・法・政治・経済・経営・商・教育

※理系学部：理・工・農・医・歯・薬・保健

※その他：生活科学・芸術・スポーツ科学・総合・環境・情報・人間

一方、中期日程は新たに実施する公立大が増えることから志望者も前年比101%とわずかながら増加した。

大学グループ別の志望者を見ると、「難関10大」「準難関・地域拠点大」「その他大」のいずれのグループでも志望者が減少した【図表1-②】。ただし、「難関10大」の志望者は前年比99%と前年を下回ったものの、国公立大全体の志望者が前年比98%となったことをふまえると、人気は堅調だと言える。

文理別にみると、文系学部では難関10大で前年比102%と増加した一方、理系学部ではすべてのグループで志望者が減少した。

また、現卒別では、「難関10大」「準難関・地域拠点大」ともに既卒生の増加率が高かった。なかでも、文系学部志望者がいずれのグループでも増加したことも特徴である。

◆国公立大の学部系統別動向 緩やかな文高理低が続く

【図表1-③】は、学部系統別の志望動向をまとめたものである。全体的には「文高理低」が緩やかに継続している。

文系は、「社会・国際」「法・政治」で志望者が増加した。「文・人文」「経済・経営・商」では、志望者は前年並みであったものの、既卒生についてはいずれも1割近く増加した。「教育」では教員養成・総合科学課程ともに志望者が減少し、不人気系統となっている。

理系は、「理」「工」の志望者は微減にとどまったものの、「農」で減少が目立った。なお、「工」では分野により傾向が異なっており、「機械・航空」「建築」「土木・環境」などで志望者が減少した一方、「通信・情報」分野では前年比114%と大きく増加した。

「医・歯・薬・保健」や「生活科学」など資格に関連した学部

③学部系統別

系統（分野）	全体			現役	既卒
	昨年	今年	前年比	前年比	前年比
文・人文	20,415	20,300	99%	98%	109%
社会・国際	9,992	10,160	102%	101%	112%
法・政治	10,245	10,308	101%	98%	111%
経済・経営・商	20,455	20,211	99%	97%	108%
教育（教員養成課程）	16,129	15,223	94%	95%	89%
教育（総合科学課程）	1,707	1,610	94%	93%	106%
理	9,087	9,009	99%	100%	97%
工	44,580	43,794	98%	98%	101%
農	11,379	10,762	95%	95%	94%
医・歯・薬・保健	34,050	32,197	95%	95%	93%
医	13,576	12,561	93%	92%	93%
歯	799	785	98%	100%	94%
薬	3,392	3,067	90%	91%	86%
看護	10,628	10,188	96%	96%	101%
医療技術・保健	5,655	5,596	99%	99%	94%
生活科学	3,142	2,960	94%	94%	104%
芸術・スポーツ科学	3,643	3,490	96%	97%	91%
総合・環境・情報・人間	5,570	5,900	106%	104%	117%

※前期日程で集計

系統では志望者が減少しており、人気の低下がうかがえる。なかでも、2018年度入試まで4年連続の志願者減となった医学科は、今模試でも前年比93%と志望者が減少した。既卒生も減少しており、2019年度入試も落ち着いた状況が続くとみられる。

「総合・環境・情報・人間」の志望者が増加したが、これは「情報」分野の人気上昇の影響である。兵庫県立大で社会情報科学部が新設されるほか、名古屋大の情報学部、滋賀大のデータサイエンス学部など既存の学部でも志望者が増加した。

高大接続改革の一環として、2019年度も国立大を中心に推薦・AO入試への募集人員のシフトが進む。これに伴い、一般入試の募集人員が減員となる大学がみられるので注意が必要である。

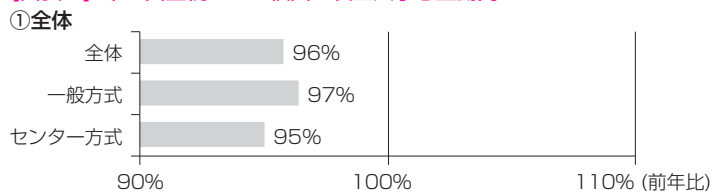
このほか、学部・学科の新設・再編や入試科目の変更がある大学の志望動向にも注意したい。また、国公立大はセンター試験の平均点によって受験生の動向が大きく変化する傾向にある。最終的な志望動向についてはセンター試験自己採点集計「センター・リサーチ」でご確認いただきたい。

◆私立大の志望者 難化を警戒した動向が顕著

私立大の志望者は前年比96%と減少した【図表2-①】。方式別にみると、一般方式で前年比97%、センター方式は前年比95%と、センター方式での減少率がやや高くなった。

主要大のグループ別に志望者をみると、「主要大グループ」全体での志望者は前年比91%と減少した一方、「その他大」では前年比101%と増加した【図表2-②】。現時点では、受験生がより安全と考えられる大学を手厚く志望する動向となった。「早慶上理」「MARCH」「関関同立」の難関大グループではいずれも志望者が1割ほど減少した。なお、現卒別にみると、「早慶上理」では現卒ともに減少、とくに現役生の減少率が高くなった。他の大学グループでは、現役生は「産近甲龍」を除き志望者が減少、一方既卒生はいずれも増加した。とくに現役生が私立大入試の難化を警戒している様子が見え始める。

【図表2】第3回全統マーク模試 私立大学志望動向



②大学グループ別

	全体			現役 前年比	既卒 前年比
	昨年	今年	前年比		
私立大全体	1,535,379	1,480,245	96%	95%	107%
主要大グループ	710,991	649,039	91%	89%	104%
首都圏					
早慶上理	129,995	117,505	90%	88%	96%
MARCH	229,075	201,708	88%	85%	101%
日東駒専	132,531	121,115	91%	89%	110%
近畿					
関関同立	142,977	130,053	91%	88%	108%
産近甲龍	76,413	78,658	103%	100%	128%
その他大	824,388	831,206	101%	100%	111%

※一般+センター方式で集計

※早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科大学 MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修

関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

◆私立大の学部系統別動向 目立つ文系学部の志望者減

学部系統別の動向をみると、国公立大とは対照的に文系学部でも志望者の減少が目立った【図表2-③】。これは、前述の志望者減少が目立った「早慶上理」「MARCH」「関関同立」の影響が大きく、これらを除くといずれの系統も前年並みからやや増となる。また、既卒生の志望者は文系各系統では軒並み増加した。理系では「理」「工」の志望者は前年並みであった一方、「農」では92%と減少した。また、情報系の人気は私立大においても高く、「工」学系の「通信・情報」分野では前年比110%、「総合・環境・情報・人間」の「情報」分野では同115%と高い増加率を示した。

「医・歯・薬・保健」では、「薬」の志望者が前年比90%と減少が目立った。「看護」「医療技術・保健」では、いずれも2019年度に学部・学科の新設が目立つものの、志望者は「看護」で前年比98%、「医療技術・保健」で同102%と対照的な動向となった。

◆国の定員超過抑制策と私立大の動き

近年、都市部の大規模大を中心に定員超過を抑えるために合格者を減らす動きが目立つ。河合塾が調査した大規模大55校の2018年度の入学定員は2016年度から約1万人増加した。一方で入学者数は約6,500人減少しており、定員超過率も110%から102%まで低下した。

2019年度も国による定員超過是正策は継続する。とはいえ、2018年度入試においてすでに定員超過率が100%に近づき、超過の是正を終えたとみられる大規模大も多い。こうしたことを踏まえると、一斉に合格者数を減らすといった極端な動きが起こるとは考えにくいだろう。

2019年度入試は2018年度に続き安全校の慎重な検討が求められるものの、一方で進学後に後悔させないために、志望する大学には果敢に挑戦させる姿勢も必要だろう。

③学部系統別

系統(分野)	全体			現役 前年比	既卒 前年比
	昨年	今年	前年比		
文・人文	328,187	317,479	97%	95%	108%
社会・国際	158,433	151,872	96%	93%	113%
法・政治	109,764	104,868	96%	93%	107%
経済・経営・商	291,435	274,892	94%	91%	113%
理	57,544	57,268	100%	98%	106%
工	217,279	218,851	101%	100%	107%
農	43,408	39,927	92%	92%	90%
医・歯・薬・保健	183,410	176,320	96%	96%	97%
歯	3,429	3,283	96%	95%	98%
薬	42,265	38,030	90%	90%	90%
看護	60,852	59,803	98%	98%	97%
医療技術・保健	38,621	39,222	102%	101%	110%
生活科学	46,761	42,193	90%	90%	88%
芸術・スポーツ科学	54,446	49,901	92%	91%	96%
総合・環境・情報・人間	44,712	46,674	104%	101%	124%

※一般+センター方式で集計